

## 6月・月例研修会報告

### 高取城から土佐街道を歩く

下村 晴文

6月13日に高取町に行きました。当日は梅雨入りしたのがウソのような好天に恵まれました。朝9時30分に近鉄吉野線壺阪山駅に集合した一行は、総勢20名です。事前に今回のコースが健脚向きとの情報を流しておいたので、皆さん登山用の服装で準備万端の様子でした。

富井リーダーのあいさつの後、バスに乗り込み、壺阪寺を目指しました。終点の壺阪寺で下り、これよりハイキングの始まりです。明るくやわらかな陽射しと、時折吹くさわやかな風という絶好の日よりに、思わず、日ごろ「ならやま」でボランティア活動している一行へのご褒美と、壺阪寺の巨大な石造りの観音様に感謝しきり。寺の中には時間の都合で入れませんでした。一段上がった道路から伽藍全体を拝観し、特に室町時代に造られたという三重塔を間近に見ることができ、その美しい姿に感動しました。

近くの山林の中に白い葉がきらきら光るマタタビの木を見ることができました。木の近くに寄ると花も咲いており、いい匂いがしました。一同興味津々で、これならば、猫も喜ぶだろうと大いに納得しました。



杉の大木と石垣の前で記念撮影

さて、ここからが急な登りの始まりでした。それでもさすが健脚揃いの一行は、誰一人遅れることなく整然と登り切り、20分ほどで五百羅漢に到着しました。



お釈迦様の弟子500人の姿を岩肌に刻み込んだ石像群は、高取城の護りのために

刻まれたと伝えられています。今はハイカーの安全を祈ってくれているのでしょうか。五百羅漢遊歩道に沿って石像めぐりをした後、城を目指してさらに山道を登りました。30分ほどで史跡高取城の石碑の前に出ました。ここからが城内になります。休憩後、本丸を目指して石垣の間を縫うように続く道を進みました。途中石垣の積み方や、多くの門跡などを間近に観察しながら進みます。本丸に近くなると、石垣はさらに高く、また杉の大木も現れ、壮大な景色は奈良のマチュピチュといわれるのも当然です。

本丸跡で食事をして、ふもとの土佐街道を目指すことにしました。途中国見櫓跡では、大和平野を一望することができ、遠く阿倍野ハルカスや六甲山まで見渡すことができました。

明日香から持ってこられた猿石や、高取城主であった植村氏の菩提寺、宗泉寺などを横に見ながら、土佐街道沿いにある武家屋敷を見学しました。武家屋敷では、街道を行く人を見張るための窓（与力窓と言うそうですが）や、堀の向こうから通行人を監視するために開けられた監視窓を見ることができました。また、夢創館では、映像による高取城の復元パノラマ、街の駅では高松塚古墳、キトラ古墳（原寸大の模型）の内部にも入ることができました。最後に重い足を引きずりながら、高取城二の門を移築・保存している、子嶋寺を見学して研修会を無事終了することができました。壺阪駅に到着したのは、午後3時30分、計画どおりのピッタリでした。お疲れ様でした。